

2014年7月10日(木)

第2号

# 両輪タイムズ

ホームページ版



和歌山県の宇田毅さんからのWS活用報告 特集

## WS活用報告：和歌山県紀美野町の地域活動

本年四月に両輪タイムズを創刊しました。WS研修生のコミュニケーションペーパーとして、皆さんの地域活動実践やWS活用の事例を紹介する場にしたという狙いがあります。

第一回(平成一六年)研修にご参加頂いた和歌山県の宇田毅さんに本紙への寄稿をお願いしましたところ、快くお引き受け下さり、この度『地域資源の活用と地域の活性化についてのレポート』が届きました。報告された活動の中では、WSが、肩の張らない会議方式としてうまく使用されているようです。それでは宇田さんの御報告をご覧下さい。

### 紀美野町での取組み

宇田 毅(第一回生)

和歌山県紀美野町での取組みに関して一区切りつきましたので報告させていただきます。

本県の紀の川や貴志川上流域

には日本の歴史と同等の古さを持つ集落が多いのですが、今では、風前の灯火状態が大多数を占めているような気がします。

1ドル360円時代から進んだ円高の影響で資源の供給地としての役割が無くなり、現代でも通用する特殊な資源を持っていない地域は、衰退の一途を辿っているのではと思われれます。

日本が貧しかった頃の方が、集落の人口も多く山林や農地の保全も行き届いていたのに、豊かな国になった事が衰退の原因とすれば悲しい話です。経済の仕組みに新たな視点が必要と感じます。また、自治の仕組みも不完全で、住民間の話し合いが機能していないために、ポテンシャルを生かし切れていない地域が多い事を感じています。この点については本報告の末尾で改めて触れたいと思います。

## WS方式による座談会の経過

今回の私の報告『紀美野町における地域活動』は、次の様な経過を辿り、ひとまずの成果へと至っています。その間、WS方式によるグループ討議(座談会)を三回開催しました。

### 契機：二〇一四年正月

紀美野町在任の大学の後輩の母親Oさんから、「私は放棄地の再生活動に興味を持っているのだが、近所で耕作放棄地がどんどん増えている。何とかできないものか？」との相談を受けました。今年の正月、私からの年賀状の写真(子供が田圃の水路の泥上げをするシーン)を見て、私への連絡を思いついたとのことでした。

### 第一回座談会：三月一五日(土)

廃校を利用した町の施設で管理者H氏と面会する用事があり、それに併せてOさんと会うことにしました。『友人を誘いたい』



廃校を利用した集会施設での第1回座談会の様子

というOさんの希望をお受けしたところ、当日会場には一三人が集約。純農家一名、会社経営に携わった経歴を持つ方や元教師、コンピューター関係企業のSE等、様々な人材が寄り集いました。

こちら座談会運営サイドも、急遽海草振興局農地課長等を同行し、早速会場でWS形式の話し合いを実施しました。

Oさんが藻谷浩介氏の著書「里山資本主義」に感化されていた関係もあり、何か儲け話的なネタ探しのような話題に終始し、既存の地域資源を見直す等の雰囲気にはなりませんでした。

2014年7月10日(木)

第2号

# 両輪 タイムズ

ホームページ版



和歌山県の宇田毅さんからのWS活用報告 特集

## 第二回座談会：四月二十六日(土)

先の座談会で話がトツチラカ  
ツタ影響と時間を空けすぎたの  
か、参加者は半減し六名でした。

『県内の先進地区などを例に、  
地域のモノを活用した活性化ア  
イデア策を展開できぬか?』など  
の視点で意見交換を試みるため  
に、活性化の思考ポイントを予め  
四分割して意見集約する手法(宇  
田方式)を試してみました。集約  
の4ポイントとは次の通りです。

- ①活性化となる地域の資源は何か?
- ②どんな体制が必要か(既存組織は)
- ③内外の関心を呼ぶ情報戦略は何か
- ④活動に必要なスキルアップや情報  
収集等をどうするか

しかし、議論を始めたところ、  
既存資源を提案できない、現在町  
内で活動している団体の情報も  
知らないという状況に陥りまし  
た。不思議に思い、理由や背景を  
聞き取る中で、他者の取組に無関  
心な場合によっては否定しがち  
な)地域性を感じました。



第2回座談会の様子

それが、正論主張型で群雄割拠  
的な状態を生み、地域一丸となる  
様な取組を妨げているのではと思  
い至り、WS運営側としては、こ  
の面への配慮と対応が、次回以降  
の座談会やこの地での地域づくり  
には必要と認識しました。

## 第三回座談会：五月十七日(土)

○さんの友人と言うことで集ま  
ったメンバーなので、プロジェク  
トを開始する上で、グループの熟  
度不足は否めませんでした。しか  
し、まず小さくても良いから活動  
を開始したいという○さんと、御  
近所のTさんの強い意向がありま

した。そこでWS運営サイドとし  
ては、今後の座談会および地域づ  
くりの展開にあたって、次の二点  
が重要であると判断しました。

①地域活性に強い気持ちを持つ二人  
と、漠然とした活性化への思いを持つ  
他のメンバーとのバランスを考えな  
がら、今後の進め方を整理し、話を展  
開していく。

②本来地域活動は、住民により自発的  
に生み出される形が望ましいが、熟度  
的に一歩手前の組織においては、専門  
家・運営サイドからの提案に沿った活  
動(地域実情や活動主体に合うもの)  
を実践し力をつけていくことも大切。

この観点に基づき、WS運営サ  
イドは、『町内外の事例を学ぶた  
め、あちこちに出かけて勉強する  
ための仕組みづくりと、耕作放棄  
地対策から地域再生を考えるプ  
ロジェクトの立ち上げ』の2本立  
てで当面の間、活動を進めること  
を提案しました。

その結果、提案は受け入れられ

『○さんの近所の遊休農地の再  
生を県事業で進めるプロジェク  
トチームおよび、地域づくりの勉  
強・研修(外部視察等)組織』の  
結成と活動実践を決定しました。



第3回座談会の様子

座談会では、さらに勉強・研修  
組織の名称と組織目標および活  
動内容等を定めています。

まず、組織名称は『紀美野いき  
いき講中』としました。実は、こ  
の中にある『講中』については次  
の様な曰く因縁があります。

私は日課である朝の散歩の折、  
神社の石灯籠に刻まれた『講中』  
の文字に強く惹かれた経験があ  
ります。興味を持って調べたとこ



2014年7月10日(木)

第2号

# 両輪タイムズ

ホームページ版

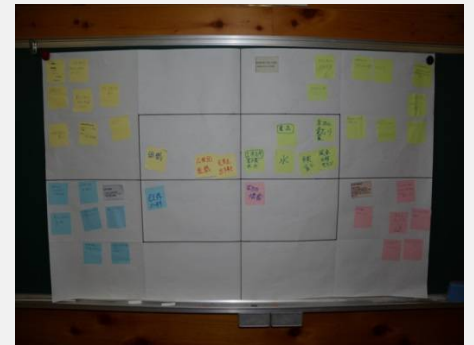


和歌山県の宇田毅さんからのWS活用報告 特集

ろ、それは、昔の自治制度の中で  
 娯楽旅行や互助会的な活動を運  
 営するグループを示すものとい  
 うものでした。そこで、座談会出  
 席メンバーの皆さんに、「この組  
 織を、現代行き詰まりを見せてい  
 る農村の自治制度として、上手く  
 復活させることはできないか」と  
 伝え、グループ名に『講中』使用  
 を提案したのです。

比較的高齢の方が多かったの  
 で、昔々の様な仕組みがあったね  
 と比較的あっさりとして理解が得ら  
 れました。当初は『紀美野活性化  
 講中』を提示しましたが、『活性  
 化は行政用語で固い』との意見  
 があり、いくつかの代案を意見交  
 換した結果、女性参加者からの提  
 案『紀美野いきいき講中』に落ち  
 着きました。(【注】参照)

また、当組織の目標としては、  
 『各々が頑張つて正しい道筋を  
 捜し求めるあまり、ぶつかり合っ  
 て八方塞がりになるのではなく、  
 楽しい道筋を捜して未来に残



『紀美野いきいき講中』の方向性を検討する4分割図。  
 下表は考察結果の4分割図「講中のこれから」の詳細

<p>●講中の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*顧問</li> <li>*講元</li> <li>*副講元：男性1 女性1</li> <li>*世話人3</li> <li>*講員：町内外有志</li> </ul>	<p>●実施する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*町内外の情報収集</li> <li>*視察</li> <li>*研修会への参加</li> </ul>
<p>●組織力育成・素地調査・                  情報収集・スキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*地域づくりネットワーク                      和歌山県協議会への加入</li> <li>*秋津野塾ノウハウ吸収</li> <li>*外に出て風を感じる</li> </ul>	<p>●内外への広報・情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*フェースブック等で発信</li> <li>*広報誌への投稿</li> </ul>

そう』という雰囲気を感じ、紀美野町  
 に創つて行かため、皆で楽しく研  
 修や勉強をし、そのため各地に積  
 極的に出かけたりもしましょう』  
 という内容を参加メンバー全員  
 で確認しました。

【注】講とは同一の信仰を持つ人々による結  
 社のことだが、無忌講など相互扶助団体の名  
 称として転用対象は多岐にわたる。ここでは  
 『紀美野町を活性化したい、楽しい町にした  
 い』という思いを持つ方々の集まり』の意味。

## 座談会後の活動展開

方向性を固めてから、一ヶ月余  
 りでヤギを使った耕作放棄地対  
 策プロジェクトを開始できまし  
 た。是には民間企業OBの方々の  
 実行力が発揮されたと思います。  
 また、ホームページ作りやフェ  
 ースブックへの「紀美野いきいき  
 講中」の立ち上げなど、パソコン

を趣味としている方がここぞと  
 ばかりに腕前を發揮し、滑り出し  
 は順調と思われまふ。  
 会の規約も作り会費も集めて  
 いる様ですし、時期が来れば研修  
 等への参加なども予定されてい  
 るとのこと頼もしい限りです。  
 耕作放棄地も使いようによつ  
 ては資源となる事を起点に、今後  
 様々な地域資源活用への展開に  
 道が開ける事を期待しています。  
 支援の取り組みを振り返って

今回の機会を含む私のこれま  
 での支援の経験を通して見えて  
 来る『農村部における地域づくり  
 の課題や要件』について整理して  
 みたいと思います。(次頁図参照)  
 文頭でも述べましたが、住民間  
 の話し合いが機能していないた  
 めに、ポテンシャルを生かし切れ  
 ていない地域が多いことを感じ  
 ています。原因は『正論倒れ症候  
 群』と私が勝手に命名する症状の  
 蔓延のせいではないでしょうか。

**農地再生メエク案だ**

紀美野町の遊休農地約  
 47ヘクタールを放牧して雑草  
 を食わせて、農地として再生  
 を図る事業が始まった。約  
 2か月間の予定。  
 担い手不足で耕作放棄地が増  
 加する中、県が、農地整備の助  
 っ人として各地に派遣してい  
 る。今夏は、県が、農地試  
 験(宇田町)で試験させ  
 ている農地(8区)と雑草の花

**紀美野でヤギ放牧**

子(同)。トラックから降ろ  
 れた種は、初めの土地に  
 感づいてもな、ムヤムヤ  
 と草を食べ始めた。  
 事業に必要とした地をまっ  
 くり提供した紀美野いきいき講中  
 代表の堀初瀬(とよこ)さん(69)は  
 「農地が荒れ果てて虫が発生  
 したり、インシンのため草場  
 になったりして住人が困ってい  
 た。ヤギの糞を期待した」と  
 話した。

雑草を食べる2頭のヤギ(紀美野町で)

読売新聞への掲載 (2014.06.29)

2014年7月10日(木)

第2号

# 両輪タイムズ

ホームページ版



和歌山県の宇田毅さんからのWS活用報告 特集

百分の絶対正しい理屈などあり得ないのに、自分勝手な基準による「×」の判定が好きなレフェリーが多い地域では、プレーヤーがその泥を被り、結果、嫌気が差して逃げてしまうでしょう。今後暫く私の持論は「正しい道筋づくりではなく、楽しい道筋をつくりましょう」になると思っています。

私は、県下各地の農業基盤整備に携わってきましたが、今後は、田舎に必要な基盤、「楽しい道筋」を作っていくために、しっかりとコミュニケーション形成の技術を磨かなければならないと、今回の地域活動支援を通して、改めて実感しました。

(平成二六年六月二十日投稿)

**編集者の感想**  
小野邦雄

貴重な実践報告をお寄せ頂いた宇田さんに感謝をいたします。

地域活力の衰えゆく状況を肌で感じ、何とかしたいとする住民

《既存資源の評価 に関して》

- 住民自らが地域の資源に×のレッテルを貼る。  
\*あれはダメ \*他の集落が良くなるのはダメ  
\*取組んでいる人がダメ \*自分が中心にならないとダメ  
\*もっとカッコウの良いものでなければダメ
- バラバラの価値観で、生活習慣病のように×のレッテルを貼り続けてきた結果、『角を矯めて牛を殺す』のたとえのように、「正論倒れ」で元気がない地域が多い。

《新規資源(事業)の追加 に関して》

- 昔のように資源の供給側で無くなったため、地域の資産がダダ漏れだが、場あたりの何か事業をやっても、少子高齢化で新規事業効果の持続性等は予測困難。
- 今までと大差ない発想でやれば、同じ様な結末となりがち。

図1 これまでの地域づくり…既存資源評価や新規資源(事業)追加…によくある話

《地域づくり(地域の活性化)とは?》

- いわゆる成功地区では、既存資源群の新たな価値を創造し活用する仕組みが機能している。

《価値を創造し活用する仕組み とは?》

- 地域共有の内発的で新たな価値観⇨住民主体の自治力の創造  
\*行動していれば気づく新たな価値観(尺度)  
\*地域の社会、産業構造を変革する「物差し」
- 東京は○、和歌山は×とかでなく、自分達の町や村が◎の目線。

《仕組みを生み出す第一歩 とは?》

- 地域のコミュニケーション再生から「仕組みの生み出し」を始め、地域の社会や産業構造の改革へと進んでいく。

図2 これからの地域づくりに求められる要件・・・[注]図1, 2は第3回WSで用いたもの

の方々は少なくないと思います。今回はそうした思いを持つ人々が、地域活動の一步を、地域づくりの専門家(ファシリテーター)の支援を得て踏み出そうとする際の記録です。やる気はあっても活動体制が脆弱なグループを、どう育てていくかという点に支援側の苦勞があったようです。

座談会の中で参加者に配布した宇田さん作成の資料(上図1・2)には、地域づくりの要諦がうまく表現されています。こうしたことへの理解(先行的理解)を一方で深めつつ、志のある仲間が活動を進め共同の力を蓄積していく形がとても大切だと思いました。

**お知らせ** 本年四月創刊の『両輪タイムズ』第2号は、和歌山県の宇田毅さんからの報告特集でした。研修修了生の皆さんからの地域づくりやWS活用報告を募集しています。編集局宛これらと思っ情報がありませんら、お送り下さい。

\*\*\*\*\*  
 編集局 ma二:k.hayashi@rdpc.or.jp  
 ●農村開発企画委員会/林 賢一  
 ●(WS小野塾) /小野邦雄